

# Excel2007 で強化された条件付き書式で数値を視覚化する

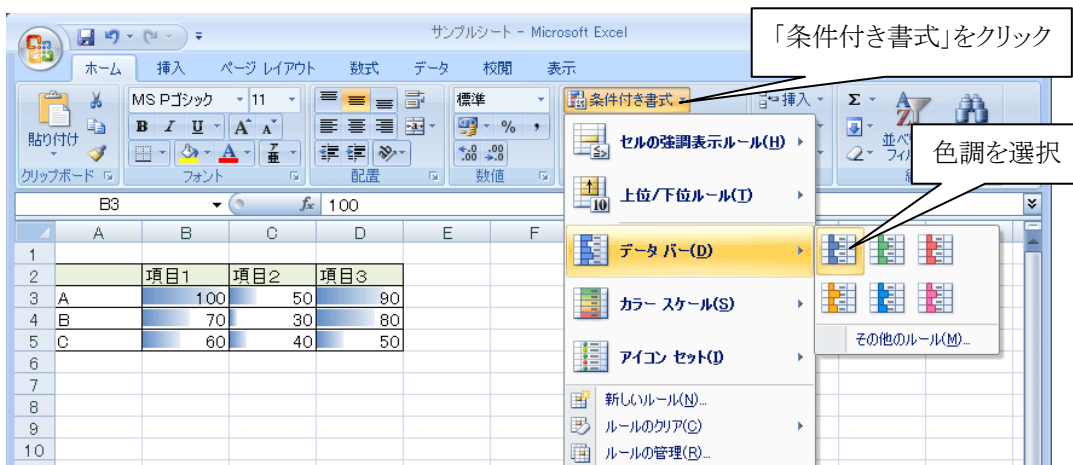
2003 までの Excel でも「条件付き書式」機能は用意されていましたが、数値によって文字やセルの色を変えるなどの工夫は行うことができます。Excel2007 ではこの「条件付き書式」機能が大幅に強化されており、以前に比べて驚くほど簡単な操作で、数値を視覚化できるようになりました。ここでは、その手順について紹介します。

①まずは、視覚化したい数値が格納されているセル範囲を選択します。

	A	B	C	D
1				
2		項目1	項目2	項目3
3	A	100	50	90
4	B	70	30	80
5	C	60	40	50
6				

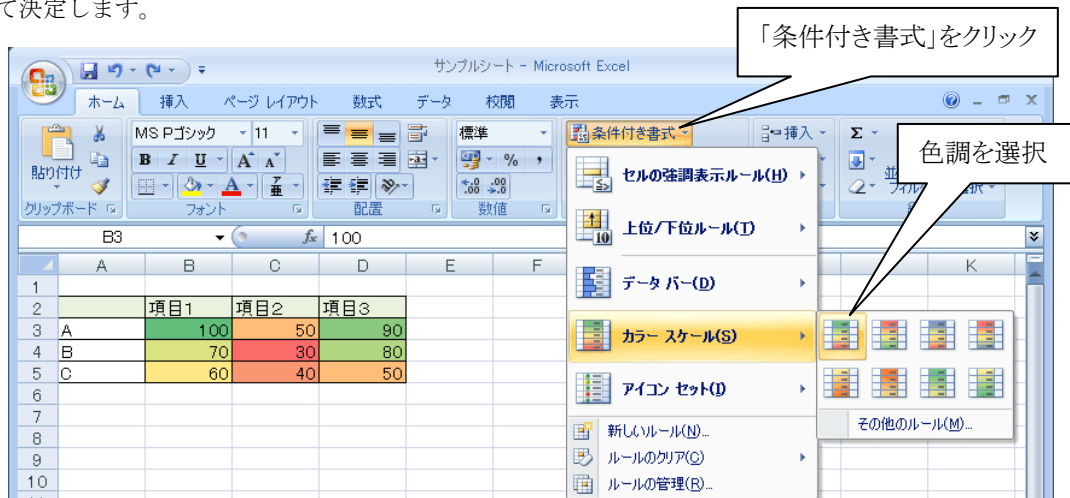
セル範囲を選択

②まず「データバー」を試してみましょう。「ホーム」リボンから「条件付き書式」→「データバー」と選択していき、好みの色調を選択します。クリックまでしなくても、マウスカースルを動かせば、最初に選択したセル範囲でその効果をリアルタイムにプレビューできますので、「これっ！」という色調の部分でクリックして決定します。



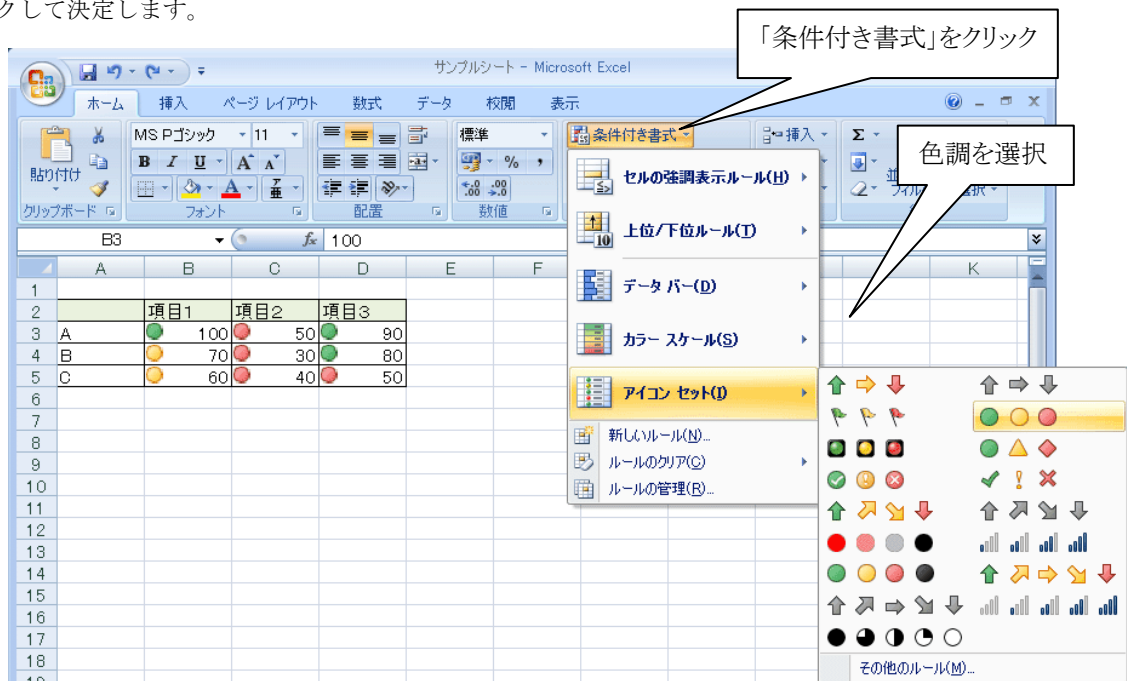
この書式は、セル内にグラフが表示されるようなものであり、アンケートの集計結果などをまとめる場合に重宝するのではないのでしょうか。

③次に「カラースケール」を試してみましょう。「ホーム」リボンから「条件付き書式」→「カラースケール」と選択していき、好みの色調を選択します。クリックまでしなくても、マウスカursorを動かせば、最初に選択したセル範囲でその効果をリアルタイムにプレビューできますので、「これっ！」という色調の部分でクリックして決定します。



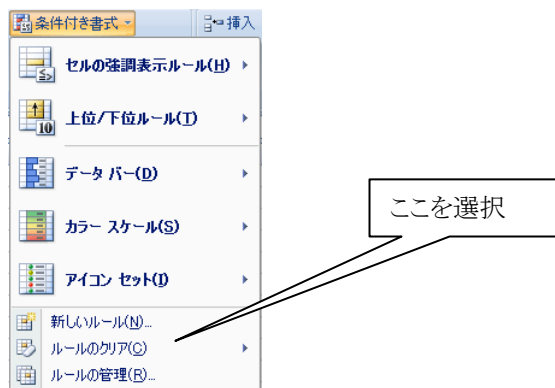
この書式は、色の濃淡でセルの値を表すものであり、テスト結果や評価によってデータを色分けする、などの使い方が向いていそうです。

④次に「アイコンセット」を試してみましょう。「ホーム」リボンから「条件付き書式」→「アイコンセット」と選択していき、好みのアイコンを選択します。クリックまでしなくても、マウスカursorを動かせば、最初に選択したセル範囲でその効果をリアルタイムにプレビューできますので、「これっ！」という色調の部分でクリックして決定します。



「カラースケール」がセルの背景色で値を表すのに対して、こちらはセル内にアイコンを付加することで、そのアイコンの色や形が値を表します。「カラースケール」同様、テスト結果や評価によってデータを分類する、などの使い方が向いていそうです。

⑤最後に、設定した条件付き書式の解除手順を紹介しておきます。条件付き書式が設定されているセル範囲を選択し、「条件付き書式」→「ルールのクリア」から「選択したセルからルールをクリア」もしくは「シート全体からルールをクリア」を選択します。



なお、上記メニューから「新しいルール」を選択すると、自分でルールを作成できます。